

小国町民体育館完成予想模型

豊富な杉資源を生かす。

小国町の「悠木の里づくり」。

悠木の里——。悠久なる小国杉、悠々と白煙を噴き上げる地熱。豊富に存在するこれらの資源を活用し、活力と個性あふれる地域づくりを進めている小国町

のキャッチフレーズです。

悠木の里を象徴するのは、木造の大型建築物。小国杉を主体とし、立体トラス工法により組み上げて作る「交通センター」、「林業センター」、「体育館」などが建ち並び日も間近です。

また、二十一世紀に挑戦する小国人づくりを目指して「おぐにみらい塾」を開設するなど、多様な企画で町を挙げての地域づくりが活発です。

この「悠木の里」は熊本市江津湖畔で開かれているクマモトグリーンピクニック'86の会場にも登場しています。

会場見学のあい間に、「悠木の里」の木陰でひと休みしてください。

くまもとの名水のふるさととしてPR。

「水の生まれる里」白水村。

南阿蘇中央部の白水村は、環境庁名水百選に選定された白川水源をはじめ多くの水源を有する「水の生まれる里」です。

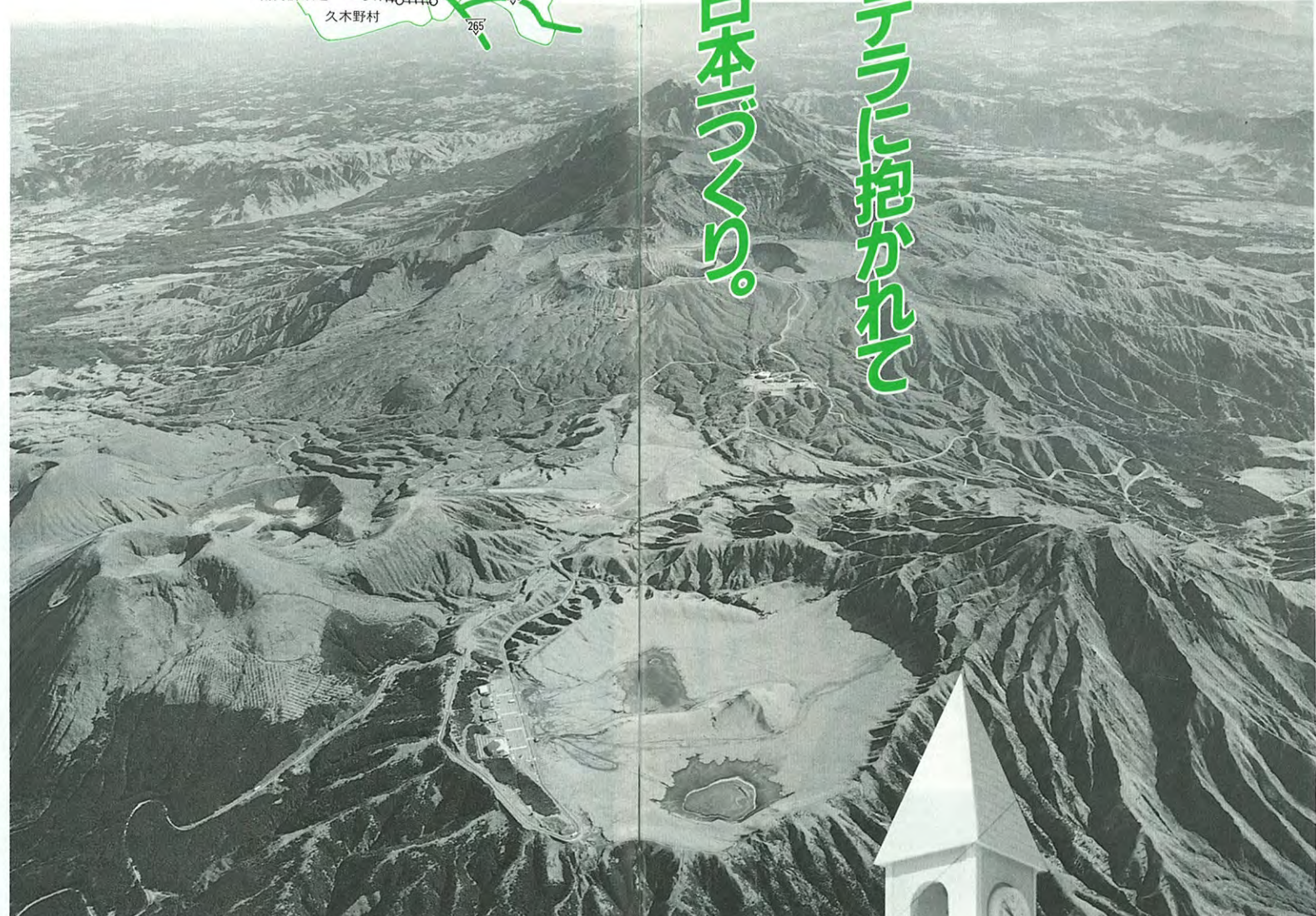
白水村では、これらの水源を活用して、自然とのふれあいのある観光地づくりを中心に村づくりに取り組んでいます。

今年の春、南阿蘇鉄道の駅として新装なった白水村の阿蘇白川駅は、そのメルヘンチックなトンガリ屋根と水のイメージの青と白の色彩が印象的。白水村のシンボルとして、訪れる人々の人気を集めています。



雄大な阿蘇山。緑なす原野。そして日本列島に春を告げる壮大な野焼き。裾野には多くの温泉と水源。阿蘇地方では、これらの恵まれた自然を活かし、今、地域づくりの様々な取り組みが始まっています。

世界一のカルデラに抱かれて 噴煙あがる 阿蘇地方の日本づくり。



日本の春を呼ぶ 壮大な炎の祭典。阿蘇の火まつり。

阿蘇広域市町村協議会主催の阿蘇の火まつりは、地域の各種団体の参加協力を得て、昭和五十九年度から始まりました。

原野を走る野焼きの炎、阿蘇神社の勇壮な火振り神事等に加え、第二回からは、阿蘇山中腹の大「火文字焼き」も登場し、日本列島に春を告げる一大イベントとして定着しつつあります。



緑の中にソフト産業が集積 「高森インテリジェント・パレ」

心安らぐ緑の中のクリエイティブ・エリア。南阿蘇のふところに位置する高森町は、高森インテリジェント・パレ構想(高森ソフトの村構想)の実現を目指しています。

これは、緻密な頭脳労働を必要とするソフトウェア産業を根子岳の麓に誘致・集積しようというものです。自然とソフトウェア産業の調和ある発展。高森町は新しい型の産業立地のモデルとなります。

十年後には高森町を世界に向かっての情報発信基地に。高森インテリジェント・パレ構想の期待はふくらみます。



阿蘇神社千数百年の歴史。 「阿蘇を拓いた神々の心なかり」の聖地。

阿蘇の歴史を象徴する壮麗な阿蘇神社。ここは、阿蘇の火まつりの主要な舞台ともなっています。一の宮町では、この阿蘇神社を核として、観光地としてのまちづくりを進めようとしています。

誇るは世界一のカルデラ。 「またくる観光の町」を目指す阿蘇町。

世界一のカルデラ火山である阿蘇中岳を有する阿蘇町は、古くから観光地として栄えてきたところです。

ここでは、今、観光ニーズが多様化・国際化するなか、いかに観光地としての魅力を充実していくかについての取り組みが始まっています。松下政経塾生を迎えての阿蘇町活性化フォーラムや善意通訳の会など、町づくりへの気運が盛り上がっています。

